

上宮寺通信

第六十号

歡喜会(かんぎえ)

8月はお盆を迎えます(地域によつては7月)。

浄土真宗ではお盆を「歡喜会」ともいいます。他の仏教宗派と違い、あまり盛大にお盆をお迎えすることはないので「楽しんで」と皆が喜ぶから「歡喜会」と名付けられた、というわけでは決してありません。

お盆はサンスクリット語のウランバーナが語源となつており、「倒懸(とうけん)※逆さまに吊り下げられること」という意味があります。その由来は『仏説盂蘭盆經』に伝えられています。

お釈迦様の弟子である目連尊

者は神通力に優れ、普通の人では見えないことも見通す力を持つていました。その神通力を使い亡き母親の様子を見ると、母親は地獄(餓鬼道)に落ちて食べる物もなく常に飢えているという、まさに逆さまに吊り下げられるような苦しみを受けていたのです。

目連尊者は母親を救おうと自らの神通力でもって母親の前に食べ物を出します。しかし、その食べ物は一瞬にして灰となり、母親の苦しみは増すばかり。そこで母親の救いをお釈迦様に求めます。

お釈迦様は7月15日(旧暦)に夏(雨季)の修行を終えた僧侶たちに精一杯の施しを行い、母親の供養のために盛大な法要を営んでもらうことを勧めま

す。そのおかげで目連尊者の母親は地獄の苦しみから抜け出ることができた、と経典には書かれています。

私たちも日々の生活の中で様々な悩みや苦しみがありません。『おいしいものを食べに行くと』、『気晴らしに旅行にでも行く』と、対処療法的に悩みや苦しみを忘れることもありますが、根本的には何も解決していかないということが多くあります。

仏教では悩みや苦しみの根源は「自我」思い通りにしたいと思う心にあると説きます。そのことを自覚しないと根本的に悩みや苦しみからは逃れられないと教えるのです。

目連尊者の母親も目連尊者の差し出した食べ物では救われませんでした。僧侶たちによる盛大な法要で象徴される「仏法」によつて救われたのです。

仏法に出会うことこそが人間の悩みや苦しみの根本的な解決となつていく。これが『仏説盂蘭盆經』に説かれることでもあります。

お盆はその仏法に出会うことができたという喜びでお迎えする、そのことから「歡喜会」とも称されるのです。



◆行事案内

上宮寺の行事

お盆(孟蘭盆会) 法要

8月13日(日)・14日(月)

午前9時〜午後3時(両日とも)

場所: 上宮寺本堂

※ご都合のつく時間にお参りください。

◆話題あれこれ

○8月13日、14日は、お盆(孟蘭盆会) 法要をつとめさせていただきます。読経時に法名を読み上げますので、受付で記入できるように準備もお願いいたします。

○秋のお彼岸・永代経法要を、9月8日に勤めます。午前9時の法要で正午頃に終了予定です。今回の法話の講師は住職が名古屋別院在職時の後輩になります。とても熱く仏法を語ってくれますので、ぜひともご聴聞ください。

秋季彼岸会・永代経法要
9月8日(金) 午前10時
法要 引き続き 法話
法話 田中智教 師
(名古屋別院住主)

※午前9時の法要です。持ち帰り用の軽食をご用意いたします。



○お盆も永代経もマスク着用や手指消毒については各自の判断にお任せいたします。

○気温が38℃を超えるような暑さになった7月18日、登龍亭獅鉄さんの落語会が開かれました。あまりの暑さに参加者は少なかったですが、生の落語はいいものでした。

○コロナ禍で3年間中止となっていました「舞楽と管絃の会」ですが、今年は開催する方向で準備を進めています。住職は舞楽「陵王」の笛(音頭)を担当することになっています。

第70回「舞楽と管絃の会」
10月11日(水) 午後6時半開演
名古屋芸術創造センター

お時間がありましたらぜひお越しください。

【雑感】

三関脇が大関昇進を目指した名古屋場所。期待の若元春は勝ち越しをしたものの残念ながら大関昇進はなりませんでした。若元春が所属する荒汐部屋の宿舎となった寺と縁があつて千秋楽のパーティーに参加することができました。力士とともに歓談の場が設けられたのですが、さすがに若元春は大人気。とても近寄れませんでしたが、荒汐部屋には有望な若手がたくさんいます。特に大賀と丹治の兄弟力士には期待大です。将来、大関、横綱になるかもしれない。ぜひ名前を覚えておいてください。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号
☎052-871-0547